

## 廃ガラスを原料とした発泡軽量土木資材

### ① 評価対象資材

廃ガラスびん，ガラスくずの再生資源を原料とした軽量土木資材を評価対象とする

### ② 品質・性能

廃ガラスびん，ガラスくずの再生資源を原料とし，工業化された軽量の製品で，用途は盛土材，裏込め材，埋め戻し材とし，次のいずれかに該当していること。

- a. (財)土木研究センターの技術審査証明を受けている。
- b. NETIS(評価情報)に登録されており，有効性が確認できる。
- c. 試験施工等による有効性が公的機関により確認されている。

### ③ 再生資源の含有率

廃ガラスびん，ガラスくずを100%使用していること。(発泡材等の添加材料を除く)

### ④ 環境に対する安全性

- a. 原料として特別管理(一般・産業)廃棄物を使用していないこと。
- b. 製品または原料(再生資源)において，土壤汚染対策法施行規則(平成14年環境省令第29号)第31条第1項による「土壤溶出量」及び第2項による「土壤含有量」の基準に適合すること。(ただし，土壤含有量についてはシアンを除く)

### ⑤ 品質管理

安定した品質が確保できる設備・組織，社内規格，材料の供給体制，品質管理推進責任者等を備えた工場において製造された製品であること。

### ⑥ 環境負荷

- a. 再生資源を含有しない製品を使用した場合に比べ，環境負荷低減効果があること。
- b. 再生資源を含有しない製品を使用した場合に比べ，別表1に示す項目について環境負荷が増大しないこと。

別表1 環境負荷増大が懸念される項目

環境負荷の増大が懸念される項目	<p>ア. 製造段階で新材からの製造に比べ，エネルギー消費量の増大，地球温暖化物質の増加，大気汚染，水質汚濁，騒音，悪臭，有害物質の排出などの環境負荷が増大しないか。</p> <p>イ. 新材に比べ運搬距離が著しく長く，エネルギー，地球温暖化物質などによる環境負荷が増大しないか。</p> <p>ウ. 施工時及び使用時に有害物質が溶出したり，粉塵などとして排出される可能性はないか。</p> <p>エ. 廃棄時に新材からの製品に比べ処理困難とならないか。埋立などにより生態系の破壊を引き起こさないか。</p> <p>オ. 再リサイクルは可能か。再リサイクルへの取り組みは実施しているか。</p> <p>カ. 再リサイクルの段階において著しく環境負荷が増大しないか。</p>
-----------------	--